

厚木市新たな交流拠点としての
多目的アリーナ整備基本計画原案について
(答申書・たたき)

令和 8 年 月

厚木市新たな交流拠点検討委員会

目 次

はじめに

- 1 新たな交流拠点整備の背景について
- 2 計画条件の整理について
- 3 整備コンセプトについて
- 4 施設計画について
- 5 事業化に向けた展望について
- 6 厚木市新たな交流拠点検討委員会 検討経過
- 7 厚木市新たな交流拠点検討委員会 委員名簿

はじめに

記載内容

- ・ 厚木市新たな交流拠点委員会の設置趣旨
- ・ これまでの検討経過
- ・ 本答申の位置付け
- ・ 基本計画策定以降、新たな交流拠点整備に期待する事項

ほか

令和8年 月
厚木市新たな交流拠点検討委員会

1 新たな交流拠点整備の背景について

記載内容

- ・ 本厚木期北口周辺及び本庁舎敷地の現状と課題
- ・ 新たな交流拠点として多目的アリーナを整備する理由

ほか

2 計画条件の整理について

新たな交流拠点を整備するに当たっての条件となる計画条件の整理については、これまで市内には無かった新たな施設を整備し、新たな産業を興していく事業であるという考えのもと、次の視点を取り入れて整理を進められたい。

No. 1

今回の計画は他の自治体とは異なる厚木市ならではのポテンシャルを活かした計画であるため、他の自治体にも適用できるような内容ではなく、厚木市のポテンシャルを明確に盛り込んでおかなければ、アリーナを整備する正当性が揺らいでしまう恐れがある。厚木市にはポテンシャルがあり、その潜在的なニーズを掘り起こすために行政が主体となってアリーナを作っていくということを説明すべきではないか。

県央・県西地域には、「みるスポーツ」に適した規模の施設がなく、このアリーナ空白地帯にマーケットが存在することから、このマーケットを取り込んで、厚木市が中心となってアリーナ整備とスポーツ産業を振興していくという考え方を前提として明示されたい。

No. 2

県内では、横浜市や川崎市にスポーツ・エンターテインメント施設が集中しているという状況があるが、厚木市に新たな交流拠点ができることで、厚木市の存在を市外にアピールすることもできる。そのために、厚木市らしさや厚木市としての思いが強調された計画となるよう、検討されたい。

3 整備コンセプトについて

整備コンセプトについては、新たな交流拠点の基本的な考え方や導入機能の中で、厚木市らしさが十分に盛り込まれ、魅力を示すものになるよう、次の視点を取り入れた整備コンセプトの策定に取り組まれない。

No. 3

新たな交流拠点は、これまで市内にあった「するスポーツ」のための施設とは異なり、「みるスポーツ」を軸とした交流や発表のための施設である。新たな交流拠点が既存の施設における日常的なスポーツ活動の成果を示す特別な場として位置付けるとともに、県央地域のスポーツ振興における重要な拠点の一つとなるような姿を目指されたい。そういった姿を目指すことで、経済的な価値に表せないような価値も含めて、将来にわたっての費用対効果があり、投資する価値があるということについて、広く理解を得られるであろう。

No. 4

デジタル技術を活用して遠隔地をつないで人々が交流できるようにする機能の導入について、整備コンセプトの中で検討されたい。

No. 5

立地や厚木中央公園との連携といった本事業ならではの立地を生かした活用という方針を打ち出していくということだが、やや整備コンセプトに「厚木らしさ」が見えづらくなっている。「みるスポーツ」や「新たな交流拠点」のキーワードが登場する第5章の内容が第1～3章の内容とどのように関係付けられるのかということがより分かりやすくなるよう、構成を工夫されたい。

4 施設計画について

施設計画については、新たな交流機能で行われる活動に必要な機能・規模を適切に具備するとともに、まちづくりにより一層寄与する機能を備える必要があり、次の視点を取り入れた施設計画となるよう、引き続き検討されたい。

No. 6

厚木市は、昼間の人口が多いという特徴があり、災害が発生し、交通が機能しなくなった場合に、多くの人が自宅に帰れないという事態になることが懸念される。そのため、新たな交流拠点は、防災拠点としての機能を有し、市民や市内を訪れる人を安心させられるよう、適切な防災機能の導入を検討されたい。

No. 7

新たな交流拠点は、「楽しむアリーナ」であるとともに、緊急時には防災機能を適切に備えた「頼れるアリーナ」である必要がある。ただし、拠点を整備するだけでは市民に安心を届けることは難しいため、地域に必要な防災機能を適切に導入していくとともに、市民には、地域に対してアリーナが果たす防災面での役割を正しく理解してもらうことで安心してもらえるよう、十分に説明をしていくことを心掛けられたい。

No. 8

パブリックビューイングなどで興行時に全国をつなぐ通信設備を災害時にも活用できるようにしておけば、防災拠点としての機能がより強化される。アリーナの防災機能としては、一般的に物資の供給・集積拠点として活用されることが多いが、いつもにも、もしもにも応えるフェーズフリーの考え方のもとで、日常でも災害でも使える通信設備の導入を検討されたい。

No. 9

市民として地域のイベントに関わっているが、屋外でのイベントは雨天時には中止になることがある。市民が気軽に天候に関係なく安心して使えるアリーナになるよう留意して計画されたい。

5 事業化に向けた展望について

目指す姿の実現には、新たな交流拠点の整備だけでなく、スポーツ・文化活動の振興などの関連する取組を同時に進めていくことが不可欠である。今後の取組に当たっては、次の視点到留意しつつ、跡地活用を推進されたい。

No.10

厚木市が行政として将来的なニーズを掘り起こす意思があるのであれば、スポーツチームを事業者側とするのではなく、行政側と一緒に事業を進めるパートナーとすることが可能である。これまでにない施設を整備する事業であり、新たな需要を掘り起こして産業化するという視点で検討することが重要である。

No.11

プロスポーツチームが地域に愛されるチームとして根付くためには、アリーナとの連携が不可欠である。今後、新たな交流拠点整備の事業化に向け、プロスポーツチームとの連携を具体化し、アリーナの地域における役割や整備の目的を明確にすることを検討されたい。

No.12

スポーツ・エンターテインメント施設は、原則的に地域で支えるという考え方が根底にある。プロスポーツ等の地域のコンテンツを地域が作り、地域で支え、その総本山としてアリーナを作るという発想もある。新たな交流拠点の整備を契機に、厚木市が目指すスポーツの聖地づくりにつながるような取組を検討されたい。

No. 13

市民のシビックプライドを高めるのが、アリーナの一つの価値だと考えている。アリーナが完成した後だけでなく、アリーナが完成するまでの間も、将来アリーナができるということを理由に子どもたちが市内に残りたいと思えるようにする必要がある。アリーナができる前から子どもたちが夢を抱けるよう、プロスポーツチームと連携した取組の実施を検討されたい。

No. 14

計画の中で、厚木市として、スポーツや文化芸術を促進していくという姿勢を示すことが重要である。少子高齢化が進行する中、子どものスポーツ活動を支援し、スポーツ振興を子育て支援に紐づけていくことについて引き続き検討されたい。

No. 15

スポーツイベントが都市イメージにポジティブな影響を与える可能性が研究されているが、厚木市も新たな交流拠点の整備に向け、今後より一層意思を持ってスポーツ振興に関与していくことが重要である。市民もスポーツに対する意識が高いと思われ、市民の思いをリードするとともに、神奈川県県央地域の中核都市として、多自治体も巻き込んでリードしていくという姿勢で取組を進められたい。

No. 16

プロスポーツチームは地域における公器だという考え方があり、自治体と持ちつ持たれつの関係で連携していく必要がある。チームにとっては、どのような条件で試合会場を使えるのかということが非常に需要であり、高額な利用料を払わなければいけなかったり、本来チームが得るべき収入が得られなかったりする状況では、活動が難しくなってしまう恐れがある。事業モデルの検討は慎重に進められたい。

No. 17

昨今の国際情勢や建設資材価格の動向、ホームチームとなるプロスポーツチームを始めとした事業条件の整理など、現時点では不確定な要素が多いことから、現在のスケジュール案については、これらの課題事項を踏まえたものとして、検討を進められたい。

6 厚木市新たな交流拠点検討委員会 検討経過

第1回 令和7年9月10日	(1) 委員長及び職務代理の選出について (2) 委員会の会議等の公開について (3) 委員会の概要について (4) これまでの経過について (5) 今後のスケジュールについて (6) 先行事例について (7) 基本計画を策定する上での論点について (8) 需要予測ヒアリングの実施について
第2回 令和7年10月29日	(1) 需要予測ヒアリング結果について (2) ヒアリング結果を踏まえた需要予測について (3) 施設計画について (4) 防災機能及び厚木中央公園等に係る連携の方向性について (5) 事業手法の検討について
第3回 令和7年12月15日	(1) 施設計画について (2) アリーナ整備からまちづくりへの訴求方策について (3) サウンディング調査の実施について
第4回 令和8年3月16日	(1) 会議の公開について (2) サウンディング調査結果について (3) 整備コンセプト（案）について (4) 整備基本計画の骨子について
第5回 令和8年5月22日	(1) 整備コンセプトの修正案について (2) モデルプランの修正案について (3) 年間利用日数の見込みについて (4) フロア面積規模の設定について
第6回 令和8年7月6日	(1) 防災機能の考え方について (2) 日常利用を促す機能及び付帯施設の併設等の事例について (3) 官民の役割及び機能の整理について (4) 基本計画（原案）に向けた基本的な考え方について
第7回 令和8年8月24日	(1) これまでの委員会の振返りについて (2) 基本計画（原案）について
第8回 令和8年9月24日	(1) 答申書（案）について

7 厚木市新たな交流拠点委員会 委員名簿

(選出区分順、敬称略)

	職名	氏名	選出区分
1	委員長	おおたけ ひろかず 大竹 弘和	学識経験者
2	職務代理	いしづか おさむ 石塚 修	市職員
3	委員	むらおか あ き こ 村岡 亜希子	公募による市民
4	委員	よしむら ひろふみ 吉村 博史	公募による市民
5	委員	こすぎ のぶお 小杉 伸夫	関係団体の代表
6	委員	やまもと ともあき 山本 智明	関係団体の代表
7	委員	うえばやし いさお 上 林 功	学識経験者
8	委員	さいとう せい 齋藤 れい	学識経験者
9	委員	たまだ たろう 玉田 太郎	学識経験者
10	委員	たむら たくし 田村 卓士	学識経験者
11	委員	ちば あきひろ 千葉 昭浩	学識経験者
12	委員	ながい のぶひろ 長井 延裕	学識経験者
13	委員	はなうち まこと 花内 誠	学識経験者
14	委員	ふるさわ あきひろ 古澤 彬弘	学識経験者
15	委員	わかな ゆうき 若菜 雄樹	学識経験者